

～未来を拓き、新たな息吹を～

中海・宍道湖・大山圏域振興ビジョン

～ だんだんサミット ～

だんだんサミットは中海・宍道湖・大山圏域市長会の愛称です。「だんだん」はこの地方の方言で「ありがとう」という意味です。この言葉は、圏域全体をイメージしやすく、親しみやすさがあります。

また、みんながお互いに「感謝」の気持ちをもって連携し、圏域の発展をめざそうという期待が込められています。

編集・発行

中海・宍道湖・大山圏域市長会

中海・宍道湖・大山圏域市長会ホームページ
<https://www.nakaumi.jp>



だんだんサミット
中海・宍道湖・大山圏域市長会

中海・宍道湖・大山に代表される豊かな自然、神話に彩られた歴史・文化を継承しながら、一層の交流と連携を育むことにより、新しい産業や文化などの地域資源を創造し、人々の元気と魅力にあふれる未来を紡ぎます。

さあ、新たなステージへ

目次

はじめに	1
将来像・基本方向	3
圏域交通マップ	5
10年間の取組	7
人口と産業	9
各市紹介	13

はじめに

中海・宍道湖・大山圏域市長会は、中海・宍道湖沿岸の5市の首長と、鳥取県西部町村会長をオブザーバーとして、圏域の連携強化と一体的な発展をめざし、平成24年4月に結成され、令和3年度は結成から10年が経過する節目の年となります。

本圏域は、ラムサール条約の登録湿地である「中海」や「宍道湖」、そして中国地方最高峰の「大山」など豊かな自然、神話の時代から脈々と続く歴史・文化、様々な特色のある産業がバランスよく集積しています。市長会では、結成直後に、このような、圏域の特性や、日本海側の都市圏における高い潜在能力、構成各市が有する特徴的な資源や優位性をいかした連携を推し進める、「中海・宍道湖・大山圏域振興ビジョン」を策定しました。このなかで、圏域内で活動する住民・NPOや各種団体、企業、行政などの各主体が共有する圏域の将来像、共通の目標及び方向性を示し、圏域振興の指針を提案するとともに、振興ビジョンに掲げた、圏域発展を支える4つの柱である、産業振興、観光振興、環境の充実、連携と協働に取り組んでまいりました。特に圏域の経済界と一体となった、圏域のブランド化の推進や新産業の創出、ビジネスにおける海外展開の支援等、地方創生に資する様々な事業を実施し、数々の実績を残してきたところでございます。

一方昨今のわが国では、新型コロナウイルス感染症の拡大等により、社会の仕組みや、人の価値観が大きく変わり始めています。特に様々な分野でデジタル化が進み、IoT、ロボット、人工知能（AI）、ビッグデータといった新たな技術の発展により、行政の在り方、住民の生活様式が大きく変わり、地域課題も更に多様化、複雑化し、個々の自治体だけでは解決できない課題も更に増えてきます。

中海・宍道湖・大山圏域市長会では、このような社会情勢の変化を踏まえ、圏域の経済界、高等教育機関等、様々な団体が一体なって進むべき、新たな指針を示すため、「中海・宍道湖・大山圏域振興ビジョン」を改訂することといたしました。新ビジョンでは、この10年間で蓄積した圏域発展のノウハウを土台とし、新たに「地産外商による稼ぐ圏域の実現、観光地域づくりの充実、グリーン社会の実現、圏域8の字ルート等の整備促進、デジタル社会に対応した基盤整備と人材の育成」といった方向性を加えております。

こうした方向性を実現していくためには、行政だけではなく、圏域内で活動する住民の方々や各種団体、企業など多様な主体が相互に協力関係を築き、共に推進していくことが不可欠と考えております。本圏域の発展に向け、皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

結びに、本振興ビジョンの改訂にあたり、貴重なご意見、ご提言をお寄せいただきました方々をはじめ、本市長会に関わっていただいているすべての方に心よりお礼申し上げます。

令和4年3月

中海・宍道湖・大山圏域市長会

会長	安来市長	田中 武夫
副会長	米子市長	伊木 隆司
副会長	松江市長	上定 昭仁
	出雲市長	飯塚 俊之
	境港市長	伊達 憲太郎

新たな時代へ大きく飛躍していくための、めざすべき将来像

水と緑がつながる 人がつながる 神話の国から 未来につなげる
～あたかも一つのまち 住みたくなる中海・宍道湖・大山圏域～

新たなステージは 人口減少を克服し、新たな圏域の元気を創造！！

将来像を実現するための基本方向及び基本目標

しごと創造 ～仕事づくりで圏域を元気に～

基本方向1 活力にあふれる圏域づくり **産業振興**

- 【基本目標】
1. 力強い産業圏域の形成
 2. 地産外商による稼ぐ圏域の実現
 3. 東アジアに向けたゲートウェイ機能の向上と活用



ふるさと創造 ～地域資源を活かして圏域を元気に～

基本方向3 次代につなぐ圏域づくり **保全・継承と活用**

- 【基本目標】
1. 自然環境の保全と活用
 2. 多様な資源の継承と活用
 3. グリーン社会の実現



賑わい創造 ～観光客を増やして圏域を元気に～

基本方向2 訪ねてみたい圏域づくり **観光振興**

- 【基本目標】
1. 観光地域づくりの推進
 2. 圏域観光の魅力向上
 3. インバウンド観光の促進



拠点創造 ～ネットワークづくりで圏域を元気に～

基本方向4 ともに歩む圏域づくり **連携と協働**

- 【基本目標】
1. 未来を創造する圏域8の字ルート等の整備促進
 2. 圏域への移住・定住の促進
 3. デジタル時代を支える基盤整備と人材育成
 4. 安心して暮らすことのできる環境の充実



中海・宍道湖・大山圏域のポテンシャルを發揮するため速やかに交通ネットワークを強化

↳ <人口・経済規模が大きい> <各種資源が豊富> <観光客の増加に期待>

交通インフラに求める機能

通勤・通学

- 中海・宍道湖圏域が約7割
- 自家用車の割合が約8割

⇒ 圏域内移動の円滑化

圏域の産業構造

- 経済規模大、異なる特徴
- 工業団地が多く立地

⇒ 圏域の一体的発展

人口

- 人口減少
- 高齢化
- 20代の人口流出

⇒ 関係人口の創出・拡大

観光

- 魅力的な観光地が点在
- 空と海の玄関口を有する

⇒ 観光地間の移動短縮

医療

- 三次医療機関が4つ立地
- 救急搬送件数は増加傾向

⇒ 送達性・安定性等の改善

災害

- 浸水、落石の発生地域
- 大雪等の冬季交通障害

⇒ 災害発生時の代替機能

航空機（東京、仙台、名古屋、大阪、福岡、隠岐へ）
※チャーター便で世界へ

クルーズ船で世界へ



中海・宍道湖・大山圏域と国内の他都市は、「米子鬼太郎空港」及び「出雲縁結び空港」発着の空路や鉄道、高速道路などの陸路で結ばれています。一方、海外とは、境港からの国際定期コンテナ航路や、米子鬼太郎空港からの国際航空路線など、東アジア地域につながる空路・海路の交通ネットワークがあります。

中海・宍道湖・大山圏域は、日本海側で有数の人口や経済規模を有する都市圏であり、空と海の玄関口として複数の空港と港湾が立地するなど山陰地方の発展を牽引する役割を担っています。しかし、産業、観光、医療面等あらゆる分野において圏域のポテンシャルが十分に發揮されているとは言えず、高規格道路機能軸の強化等、交通インフラの整備促進が求められています。

近年では、自然災害が激甚・頻発化しており、日常生活・経済活動の早期再開を見据え、被災後もすぐに機能する道路ネットワークの整備が求められており、更なる連携強化が必要となっています。

中海・宍道湖・大山圏域市長会10年間の主な取組

① 経済界との連携による効果的な産業支援策

中海・宍道湖・大山ブロック経済協議会と歩調を合わせて、圏域内企業の経済活動の活性化をめざし、「圏域内企業のビジネスマッチング」、「山陰いいものマルシェプロジェクト」、「台湾やインドとの経済交流」、「産学官・医工連携事業」など、様々な事業を実施し、圏域の産業振興を図っています。

② 中海・宍道湖・大山圏域観光局の設立

平成 29 年度に「中海・宍道湖・大山圏域インバウンド機構」を設立、平成 31 年度には一般社団法人「中海・宍道湖・大山圏域観光局」に改組し、日本版 DMO にも登録しています。圏域のブランド化の推進、観光客の受け入れ体制の強化、観光消費の高める取組みなど、観光振興に関する様々な取組を圏域一体となって実施しています。

③ 地方版総合戦略の策定と地方創生事業の実施

平成 27 年度には、中海・宍道湖・大山ブロック経済協議会と連携し、「圏域版総合戦略」を策定し、各市の総合戦略にもその内容を掲載し、「中海・宍道湖・大山圏域ブランド化推進プロジェクト」、「中海・宍道湖・大山圏域のローカル T o グローバルイノベーション」など、地方創生に資する取組みを効率的かつ効果的に実施しています。さらに、令和元年度に「第 2 期圏域版総合戦略」を策定し、圏域の強固な連携のもとに事業を展開しています。

④ 災害等に関する連携

災害時の相互応援活動を円滑に行うため、「中海・宍道湖・大山圏域災害時相互応援協定」、「中海・宍道湖・大山圏域災害時消防相互応援協定」を締結しています。また、山陽地方の備後連携協議会(福山市、三原市、尾道市、府中市、世羅町、神石高原町、笠岡市、井原市)と、災害時の協定を締結しています。

⑤ 高等教育機関との連携

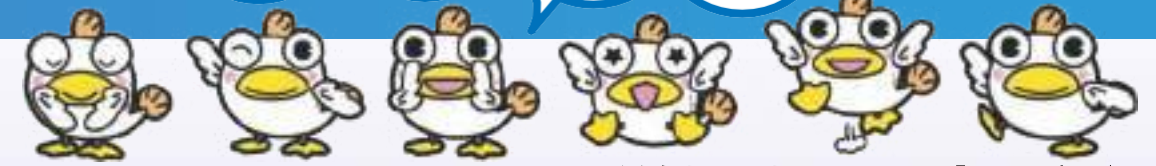
島根大学と、圏域を含む地域の活性化、産業振興及び人材育成に寄与することを目的とする包括的連携に関する協定、また、東京大学地域未来社会連携研究機構と、多様な地域課題の解決に向けたプロジェクトを実施する連携協定を締結し、各大学と圏域住民等との交流の促進を図っています。

⑥ 圏域の交流促進

圏域内の様々な団体等と連携し、環境学習の普及促進や、圏域のプロスポーツチームと連携した子ども向けイベントの開催や伝統芸能を活用した圏域住民の交流推進、交通インフラ整備促進にかかる国へ要望活動、圏域の未来担う人材育成等、多様な取組を実施し圏域内の交流促進を図っています。

中海・宍道湖・大山圏域の人口と産業

現状についてお知らせします



圏域イメージキャラクター「ウンパくん」

(1) 中海・宍道湖・大山圏域の人口

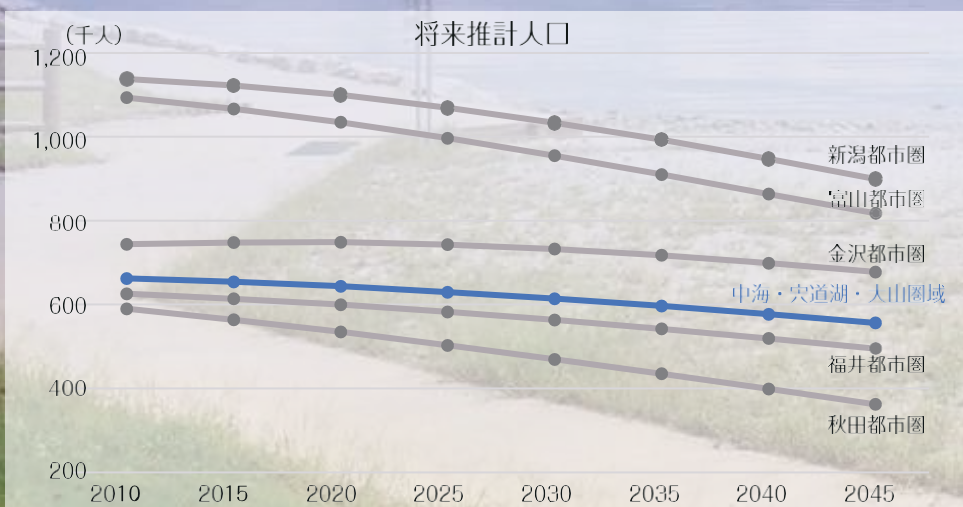
名称	R2 (人)	H27 (人)	増減数	増減率 (%)
松江市	203,616	206,230	-2,614	-1.27
出雲市	172,775	171,938	837	0.49
米子市	147,317	149,313	-1,996	-1.34
安来市	37,062	39,528	-2,466	-6.24
境港市	32,740	34,174	-1,434	-4.20
鳥取県西部7町村	49,665	53,024	-3,359	-6.33
圏域合計	643,175	654,207	-11,032	-1.69
鳥根県	671,126	694,352	-23,226	-3.34
鳥取県	553,407	573,441	-20,034	-3.49
秋田都市圏	538,608	563,621	-25,013	-4.44
新潟都市圏	1,083,936	1,122,455	-38,519	-3.43
富山都市圏	1,034,814	1,066,328	-31,514	-2.96
金沢都市圏	747,576	747,780	-204	-0.03
福井都市圏	600,904	613,704	-12,800	-2.09

【出典】総務省「国勢調査」

日本海側の都市圏等と比較しても、圏域として人口流出を防ぐ、一定の人口ダムの機能を発揮している状況と言えます。
圏域内に目を向けると、人口減少率の高い地域は、人口が少ない地域で高くなっています。人口が集積しているエリアは人口流出を防ぐ人口のダム機能を発揮しています。しかしながら、このまま周辺地域の人口が減少すれば、人口減少が急激に加速すると危惧されます。



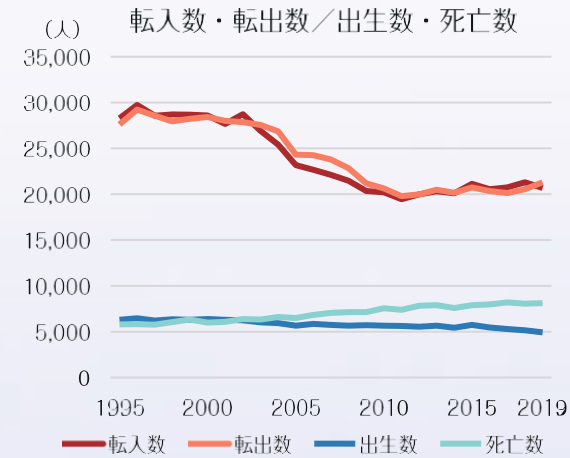
米子



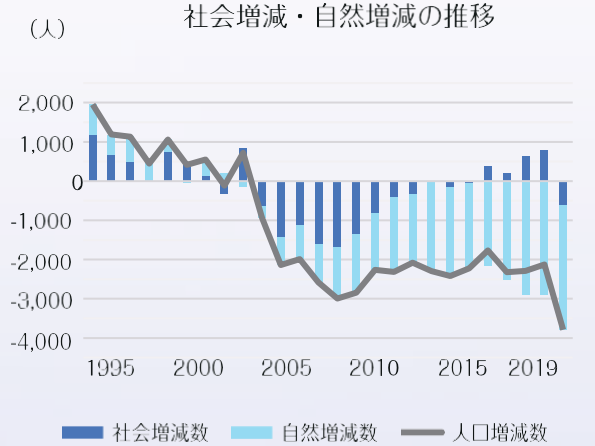
【出典】国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」

日本海側の主要都市圏と比べても、比較的緩やかに人口減少が進むと推計されています。しかしながら、今後も少子高齢化が進み、人口構造のバランスが崩れ、労働人口が減少して労働力不足が深刻になるだけでなく、年金や医療費などの社会保障費も増大することが危惧されています。

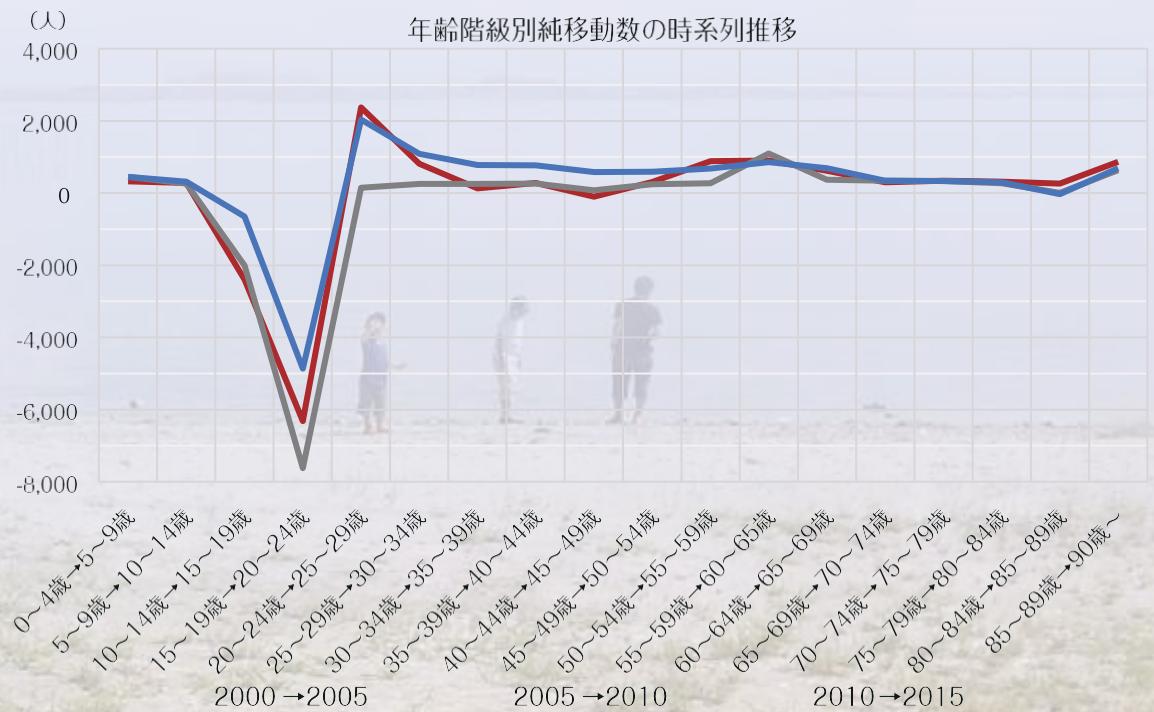
(2) 人口増減



【出典】総務省「国勢調査」
総務省「住民基本台帳に基づく人口」



【出典】総務省「国勢調査」
総務省「住民基本台帳に基づく人口」



【出典】総務省「国勢調査」、厚生労働省「都道府県別生命表」に基づきまち・ひと・しごと創生本部作成

人口増減数は、自然増減数については出生数の減少、死亡数の増加により年々減少幅が大きくなっている状況です。一方、社会増減数については、年度によってばらつきはあるものの、一定数の転入者数を確保し微増、微減を繰り返しています。また、年齢階級別純移動数をみると、特に、進学や就職を機に県外に転出しており、この世代の減少数が、圏域全体の人口減少に大きな影響を与えていると考えられます。

松江



境港



中海・宍道湖・大山圏域の人口と産業

(1) 圏域の従業者数と事業所数 (上位10区分)

名称	従業者数 (人)	事業所数 (事業所)	事業所当たりの 従業員数
卸売業・小売業	58,305	8,285	7.04
医療・福祉	46,733	2,507	18.64
製造業	40,728	1,798	22.65
宿泊業・飲食サービス業	26,295	3,642	7.22
建設業	23,063	2,975	7.75
サービス業 (他に分類されないもの)	21,579	2,386	9.04
運輸業・郵便業	14,397	621	23.18
生活関連サービス業・娯楽業	10,903	2,861	3.81
教育・学習支援業	7,829	854	9.17
金融業・保険業	7,662	597	12.83
中海・宍道湖・大山圏域全体	282,618	30,401	9.30

【出典】「RESAS-地域経済分析システム」総務省・経済産業省「経済センサス-活動調査(2015年)」再編加工

区分ごとでみると、従業員数、事業所数ともに卸売業・小売業が第1位となっており、圏域の主要な産業となっています。また医療・福祉、製造業、宿泊業・飲食サービス業も従業員数、事業所共に多くの割合を占める産業となっています。また、小規模事業所が多い状況です。今後、人口減少社会においても、継続的に働き手を確保していくことが求められています。



安来

(2) 付加価値と労働生産性

名称	付加価値額※1 (百万円)	労働生産性※2 (千円/人)
中海・宍道湖・大山圏域	852,257	3,915
鳥根県	873,267	3,743
鳥取県	640,463	3,562
山陰地方合計	1,513,730	3,664
秋田都市圏	741,886	3,822
新潟都市圏	1,782,483	4,072
富山都市圏	2,190,183	5,113
金沢都市圏	1,463,690	4,763
福井都市圏	1,224,624	4,812

【資料】「RESAS-地域経済分析システム」総務省・経済産業省「経済センサス-活動調査」「経済構造実態調査(産業横断調査)」(2016年)より作成

出雲

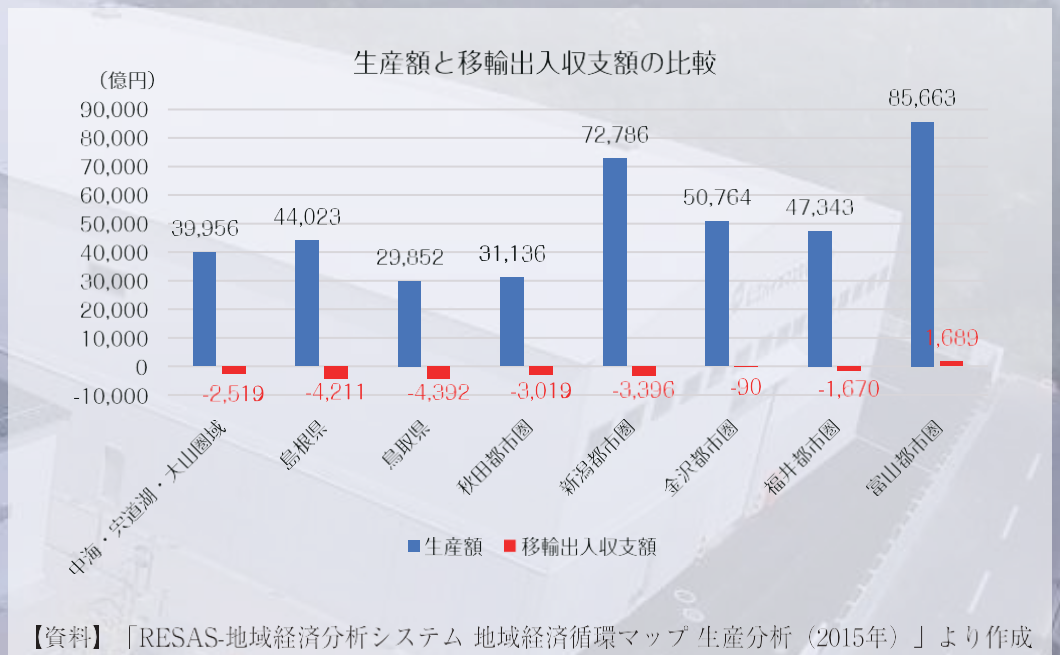


圏域の付加価値額は鳥取県の金額は超えているものの、日本海側の主要都市圏と比べると、付加価値額も労働生産性も低い位置にあります。地域の継続的な発展のためにも、生産コスト削減につながる、インフラ整備の推進等を圏域が一体となって取り組んでいくことが求められています。

(3) 生産額と移輸出入収支額の比較

圏域の産業別生産額の合計は約4兆円であり、山陰地方の約5割を占めています。人口と同様に多くの産業が集積しています。

一方域外からの収入額から域外への支出額を差し引いた「移輸出入収支額※3」をみると、圏域全体の移輸出入収支額は赤字となっています。圏域の発展のためには、圏域収支の赤字解消は不可欠であり、今後も圏域外から外貨を獲得するため、国内外に向けた観光情報発信の強化、新産業の創出、圏域内企業の海外進出支援等を継続していくことが求められます。



【資料】「RESAS-地域経済分析システム 地域経済循環マップ 生産分析(2015年)」より作成

【用語解説】

※1 【付加価値額】

製品の生産活動やサービスの提供活動を行うことによって新たに加えられた価値で、売上高(総生産額)から原材料費・燃料費・減価償却費などを差し引いた額のことをいいます。

※2 【労働生産性】

付加価値額÷従業員数

※3 【移輸出入収支額】

○移輸出額(稼ぐ力・圏域の収入)

圏内事業所及び個人が、域外に対して行った国内の移出及び国外の輸出の合計です。圏外居住者が本圏内で消費した額も含まれます。

○移輸入額(回す力・圏域の支出)

域外で生産された商品を域内へ購入してきてることであり、国内から移入と国外からの輸入の合計です。

○移輸出入収支額

域外からの(移出・輸出に伴う)収入額から域外への(移入・輸入に伴う)支出額を差し引いたものです。プラスの産業は域外からお金を獲得している産業、マイナスの産業は域外にお金が流出していることを示します。

中海・宍道湖・大山圏域市長会 構成自治体

県境や行政区域を越えた連携を更に強化し、仕事や雇用の創出、地域資源の発掘と磨き上げ、国内外への情報発信、世界に誇る歴史・文化・自然の活用等を通じた取組を行い、圏域住民のみならず、ビジネスや観光で圏域を訪問した人も含め、多くの方々が、心の底から、住み続けたい、住んでみたいと感じる圏域を創り上げていきます。

松江市 ～夢を実現できるまち 誇れるまち～



出雲市 ～げんき、やさしさ、しあわせあふれる縁結びのまち～



安来市 ～安来節とハガネのまち～



境港市 ～さかなと鬼太郎のまち～



©水木プロ

米子市 ～自然と人が共生する にぎわいのまち～

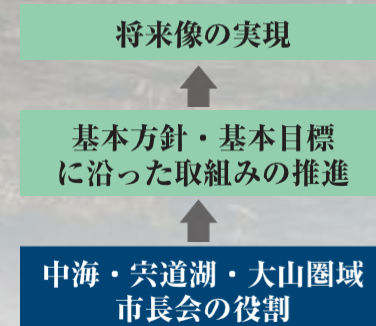


大山圏域（鳥取県西部7町村）オブザーバー



ビジョンの推進にあたって ～中海・宍道湖・大山圏域市長会の担う役割～

<ビジョン推進の概念図>



- 役割1：意識醸成** 圏域の一体感を醸成する役割
 - 連携・交流機会や情報発信活動などを通じた相互理解の促進、圏域としての一体感の醸成
- 役割2：連携促進** 圏域内の各主体の協働・連携を促進する役割
 - 圏域内の各主体が進める事業との積極的な連携
 - 経済団体や観光団体など各種広域連携組織との連携による事業相乗性の向上
- 役割3：検証公開** ビジョンの進行管理を行い、圏域内の各主体と共有を図る役割
 - ビジョンの進捗状況・成果の検証
 - 事業効果の公開と提言に基づく修正・補強